

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-220	22-080	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
No evidence for an association between alcohol consumption and Multiple Sclerosis risk: a UK Biobank study アルコール摂取と多発性硬化症リスクとの関連を示す証拠はない：UK バイオバンク研究		
執筆者		
Dreyer-Alster S, Achiron A, Giovannoni G, Jacobs BM, Dobson R.		
掲載誌		
Sci Rep. 2022 Nov 9;12(1):19122. doi: 10.1038/s41598-022-21173-9.		
キーワード		PMID
アルコール摂取、多発性硬化症、UK バイオバンク		36550182
要旨		
<p>目的：アルコール摂取と多発性硬化症の関係を明らかにする。</p> <p>方法：UK Biobank (UKB) の 409,228 人 (MS 患者 2100 人) を対象に、年齢と性別で調整した多変量ロジスティック回帰モデルを用いて、アルコール摂取 (飲酒なしと飲酒あり) と多発性硬化症の関係を評価した。アルコール摂取と HLA-DRB1*15:01 遺伝子型との統計的交互作用の有無を、相加的および相乗的手法により検討した。</p> <p>結果：アルコール摂取と MS リスクとの関連を認めなかった (OR = 1.12、95%CI 0.61-2.08、p = 0.314)。HLA-DRB1*15:01 対立遺伝子は MS リスクと強く関連していた (OR = 2.72, 95% CI 2.72-2.72, p < 2 × 10⁻¹⁶)。非飲酒と MS リスクの間には、相乗的手法 (p = 0.8) でも相加的手法 (Attributable Proportion = 0.03、95%CI -0.43-0.29、p = 0.45) でも統計的に有意な交互作用を認めなかった。経験的検出力の計算では、相対危険度 ≤ 0.7 の飲酒の予防効果を検出するのに妥当な統計的検出力 (85%) が示された。</p> <p>結論：アルコール摂取と MS リスクは統計的に有意な関連を認めなかった。</p>		